

目次	ページ
防災教育指導要領	81
1 学年 防災教育年間指導計画	82
実践事例 1 特別活動 青森県で起こるかもしれない災害を知ろう	83
実践事例 2 特別活動 大雨・洪水・台風から身を守ろう	84
2 学年 防災教育年間指導計画	85
実践事例 3 特別活動 大雨・洪水・台風から身を守ろう	86
実践事例 4 特別活動 避難所での過ごし方・感染症予防	87
3 学年 防災教育年間指導計画	88
実践事例 5 特別活動 大雨・洪水・台風から身を守ろう	89
実践事例 6 特別活動 避難所での過ごし方や感染症予防	90
4 学年 防災教育年間指導計画	91
実践事例 7・8 社会 地震からくらしを守る	92
5 学年 防災教育年間指導計画	95
実践事例 9 理科 雲と天気の変化	96
実践事例 10 理科 流れる水のはたらき	97
6 学年 防災教育年間指導計画	98
実践事例 11 社会 震災復興の願いを実現する政治	99
実践事例 12 総学 大雨・洪水・台風から身を守ろう	100
外部専門家の活用について	101
出前トーク（石川地区の川の氾濫等に関する講演） 講師 青森県県土整備部河川砂防課 企画・防災グループ	101
防災体験学習 講師 日本赤十字社青森県支部、青森県防災士会	101
外部講師による講演 講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏	102
地域と連携した防災訓練について	103
地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）	105

1 防災教育の目標

◎自他の生命を大切にできる児童の育成

子どもたちが災害について正しい知識を持ち、十分に備えていくことで不安を軽減し、夢や希望を持った明るい未来を描けるようにしていく。

災害について理解を図り、身の回りの危険を予測してどのように行動すればよいかを判断し自らの安全を確保しようとする（自助）能力の基礎を育てるとともに他の人や地域の安全に役立てようとする（共助）態度を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

○自他の生命を守るための基礎的・基本的な知識・技能（知識・技能、関心）

○身の回りの危険について思考・判断し、適切な行動をとり、自ら安全を確保しようとする力（思考力・判断力、主体的行動）

○豊かな心を育み、よりよい社会づくりに参加し、自他の安全に役立てようとする態度（学びに向かう力・人間性、社会貢献）

3 各学年における防災教育の目標

	知識・技能・関心	思考力・判断力 ・主体的行動	学びに向かう力・人間性 ・社会貢献
1 学年	通学路や遊び場所に関心を持ち、安全な行動ができるとともに、災害時には、身を守る初期行動がとれる。	災害の怖さを知り、適切な避難の仕方を考えたり、大人の指示を聞いたりして、行動することができる。	身の回りの様々な人と話したり、交流したりすることで、有事の際には、自らの情報を伝えることができる。
2 学年	通学路や遊び場所の危険を知り、安全な行動ができるとともに、災害時には、身を守る初期行動がとれる。	災害の危険性について知り、適切な避難の仕方を考えたり、大人の指示を聞いたりして、行動することができる。	身の回りの様々な人と積極的に話したり、交流したりすることで、有事の際には、自らの情報を伝えることができる。
3 学年	地域の地形等に関心を持ち、災害時の避難所や避難の仕方を知り、安全な行動ができる。	自然災害について知り、大人の指示を聞き、状況に応じて適切な行動をとることができる。	家族や友達、周囲の人と関わり合うことから、有事の際には助け合うことができる。
4 学年	地域社会に関心を持ち、災害時の命を守る工夫について知り、安全な行動ができる。	自然災害について知り、大人の指示を確実に聞き、状況に応じて適切な行動をとることができる。	進んで、家族や友達、周囲の人と関わり合うことから、有事の際には協力して助け合うことができる。
5 学年	地形や気象、自然環境について関心を持ち、これらが災害と関連していることを知り、安全な行動の仕方を理解できる。	災害に関する情報から危険を予測し、適切な思考・判断のもと、身を守るための行動をとることができる。	家族や友達、地域の人たちと災害に関することで関わり合い、有事の際には、周囲の人と助け合い、ボランティア活動にも参加できる。
6 学年	災害のメカニズムについて関心を持ち、これについて調べ、理解し、安全な行動の仕方を理解できる。	災害に関する情報から危険を予測し、適切な思考・判断のもと、周囲に気を配りながら身を守るための主体的な行動をとることができる。	家族や友達、地域の人たちと災害に関することで関わり合い、有事の際には、周囲の人と助け合い、ボランティア活動にも進んで参加できる。

災害に対して継続的に関心をもつ

防災教育年間計画（令和4年度）

令和4年度 弘前市立石川小学校 1学年 防災教育年間指導計画

学年指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・通学路や遊び場所に関心を持ち、安全な行動ができるとともに、災害時には、身を守る初期行動がとれる。 ・災害の怖さを知り、適切な避難の仕方を考えたり、大人の指示を聞いたりして、行動することができる。 ・身の回りの様々な人と話したり、交流したりすることで、有事の際には、自らの情報を伝えることができる。 						
月	各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		連携		
				学級活動	学校行事 児童会活動	学校種間連携	地域との連携 （保護者・地域民・企業・NPO等）	
4月	生活（15） 「がっこうたんけん」			安全な道路の歩き方	町会児童会①	小中合同町会別 集団下校訓練	地域住民との連携	
5月	「あそびにいこうよ」	かぼちやのつる節度、節制			避難訓練 ミニ避難訓練①		地域住民との連携	
6月	生活（4） 「あつくなつたよ」	みんなあかちゃんだったよ 生命の尊重		雨天時の約束		小中合同防災訓練 （引き渡し訓練）	家庭との連携	
7月					避難訓練 町会児童会②		地域住民との連携	
8月				実践事例 1・2 命を守ろう 1 青森県で起こるかも知れない災害を知ろう。 2 大雨・洪水・台風から身を守ろう。		小中合同防災訓練 （引き渡し訓練）	地域住民との連携	
9月								家庭との連携
10月	生活（5） 「あきをたのしもう」	はちさんのバッジ感謝			ミニ避難訓練③		弘前市との連携	
11月		大あわてのトラッピー 節度、節制		安全な集団行動	ミニ避難訓練④		地域住民との連携	
12月						町会児童会③	地域住民との連携	
1月				冬の安全な登下校	避難訓練 地震を想定			
2月		じしんがおきて 節度、節制						
3月		ハムスターの赤ちゃん 生命の尊さ			ミニ避難訓練⑤			

教科別指導計画 1 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおりおもりのノート	ICT 活用
生活	1	がっこうたんけん	(A) 学校を探検し、教室や施設を調べたりする活動を通して、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ろうとしている。		
	1	あそびにいこうよ	(A) 春の校庭や公園で遊ぶ活動を通して、守らなければならないルールがあることに気付く。		
	1	あつくなつたよ	(A) 夏になって、自然や人々の生活の様子等変わってきている点や注意しなければいけないことについて話し合う。		
	2	あきをたのしもう	(A) 秋の公園や野原で、春や夏に比べて自然や人々の様子が大きく変わってきたことに気付く。		
特別活動	2	あおりけんでおこるかもしれないさいがいについてしよう。 ※実践事例 1	(A) 青森県で想定される災害について学び、自分の身を守る方法を考える。	p4～5	・実物投影機 ・プロジェクター
		おおあめ・こうずい・たいふうがおこったときのみのまもり方を考えよう。 ※実践事例 2		p16～19	・タブレット端末 ・プロジェクター

実践事例 1 学習指導案

学 年	1 年
教科名	特別活動
指導計画 (全2時間)	1 青森県で起こるかもしれない災害を知ろう (本時)
	2 大雨・洪水・台風から身を守ろう
本時の目標	青森県で起こるかもしれない災害について知る。
防災の視点	(A) 青森県で想定される災害について学び、自分の身を守る方法を考える。
あおりおもりのノートの活用	p4～5
ICTの活用	・実物投影機 ・プロジェクター

本時の展開 (1 / 2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 あおりけんでおこるかもしれないさいがいについてしよう。		

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
2 見通す ○災害にはどんなものがあるか考える。	・あおりおまもりノートの掲載写真を実物投影機で拡大し提示する。	・あおりおまもりノート
3 全体で話し合う ○地震が起きると。 ○大雨・台風が起きると。 ○大雪・暴風雪があると。	・それぞれの場面について、どんな被害があるか写真をもとに話し合わせる。	
4 振り返る。	・今日の学習で分かったことなどを振り返らせる。	

実践事例2 学習指導案

学 年	1年	
教科名	特別活動	
指導計画 (全2時間)	1	青森県で起こるかもしれない災害を知ろう
	2	大雨・洪水・台風から身を守ろう (本時)
本時の目標	大雨・洪水・台風が起きたときの身を守るための行動を理解する。	
防災の視点	(A) 青森県で想定される災害について学び、自分の身を守る方法を考える。	
あおりおまもり ノートの活用	p16～19	
ICTの活用	・タブレット端末 ・プロジェクター	

本時の展開 (2/2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 おおあめ・こうずい・たいふうがおこったときのみのももり方を考えよう。		
2 見通す ○夏休み中の大雨のときの様子を思い出す。	・これまでの経験をもとに、川の様子や避難の仕方について考えさせる。	・タブレット端末のニュース画像
3 全体で話し合う ○台風が近づいてくるとわかったら。 ○外を歩いているとき、雨や風が強くなったら。 ○家にいるとき、雨や風が強くなったら。	・それぞれの場面についてどんな行動をとればよいか話し合わせる。 ・情報の集め方について触れる。 ・おまもりノートを参照し、確認する。	・あおりおまもりノート ・天気予報
4 振り返る	・今日の学習で分かったことなどを振り返らせる。	

令和4年度 弘前市立石川小学校 2学年 防災教育年間指導計画

学年指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・通学路や遊び場所の危険を知り、安全な行動ができるとともに、災害時には、身を守る初期行動がとれる。 ・災害の危険性について知り、適切な避難の仕方を考えたり、大人の指示を聞いたりして、行動することができる。 ・身の回りの様々な人と積極的に話したり交流したりすることで、有事の際には、自らの情報を伝えることができる。 						
	各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		連携		
				学級活動	学校行事 児童会活動	学校種間連携	地域との連携 (保護者・地域民・企業・NPO等)	
4月				通学路の確認 安全な登下校	町会児童会①		地域住民との連携	
5月	生活(7) 「まちたんけん」	しぜんのいのち 自然愛護			避難訓練 ミニ避難訓練①	小中合同町会別 集団下校訓練	地域住民との連携	
6月		おにいちゃん、しっかり 節度、節制		雨天時の約束			家庭との連携	
7月				ミニ避難訓練②	避難訓練 町会児童会②		地域住民との連携	
8月		実践事例3・4		命を守ろう 1 大雨・洪水・台風から身を守ろう。 2 ひなんじよでのすごしかた。			地域住民との連携	
9月	生活(8) 「あの人に会いたいな」	びよちゃん とひまわり 生命の尊さ			小中合同防災訓練 (引き渡し訓練)		家庭との連携 弘前市との連携	
10月				ミニ避難訓練③				
11月		たからものなかに 生命の尊さ		安全な集団行動				
12月		ごめんね みなみ 自然愛護		ミニ避難訓練④				
1月		だっこしながら 生命の尊さ		冬の安全な 登下校	避難訓練		町会児童会③	
2月		グローブの へんしん 節度、節制		災害時の正しい 行動のしかた				
3月				ミニ避難訓練⑤				

教科別指導計画 2 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおりおもりのノート	ICT 活用
生活	1	まちたんけん	(B) 自分の町を探検し、調べる活動を通して、学区の地域マップに表すことで、町の特徴やよさ、危険箇所に気付く。		
	2	あの人に会いたいな	(B) 自分が住む町で働いている人たちについて調べる活動を通して、働く人々の工夫や季節による自然の変化、交通や活動場所に対する安全に気付く。		
特別活動	2	大雨・洪水・台風から身を守ろう ※実践事例 3	(A) 大雨・洪水・台風について学び、自分の身を守るための行動を考える。	p16～19	・タブレット端末 ・プロジェクター
		避難所での過ごし方・感染症予防 ※実践事例 4	(A) 感染症対策を踏まえた避難所での過ごし方	p20	

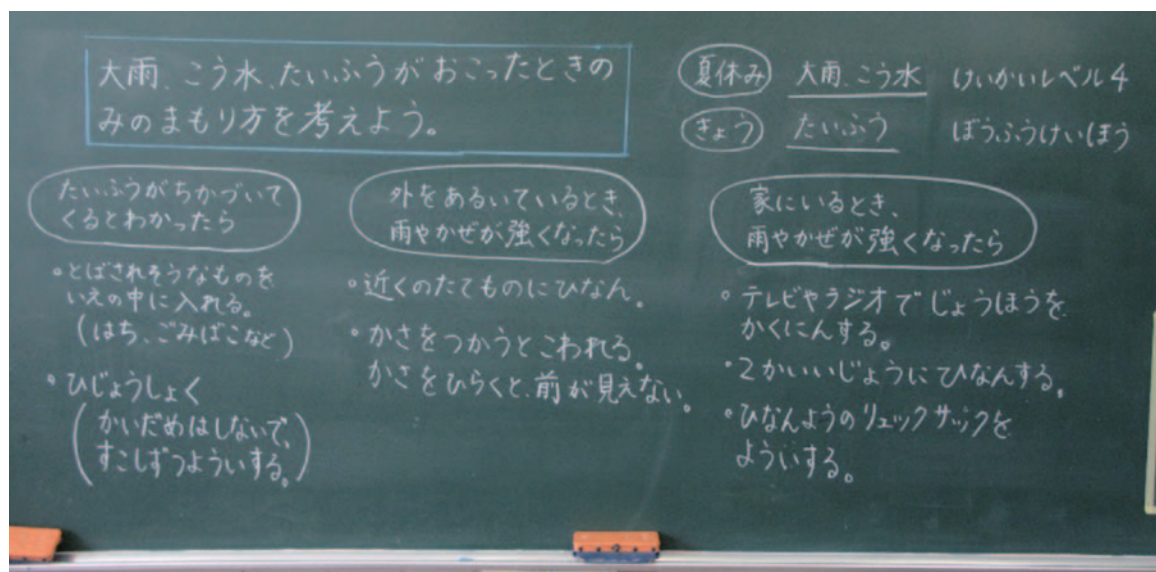
実践事例 3 学習指導案

学 年	2年	
教科名	特別活動	
指導計画 (全2時間)	1	大雨・洪水・台風から身を守ろう (本時)
	2	避難所での過ごし方・感染症予防
本時の目標	大雨・洪水・台風が起きたときの身の守るための行動を理解する。	
防災の視点	(A) 大雨・洪水・台風について学び、自分の身を守るための行動を考える。	
あおりおもりのノートの活用	p16～19	
ICTの活用	・タブレット端末・プロジェクター	

本時の展開 (1 / 2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 大雨・こう水・たいふうがおこったときのみのまもり方を考えよう。		
2 見通す ○夏休み中の大雨のときの様子を思い出す。	・これまでの経験をもとに、川の様子や避難の仕方について考えさせる。	
3 全体で話し合う ○台風が近づいてくるとわかったら。 ○外を歩いているとき、雨や風が強くなったら。 ○家にいるとき、雨や風が強くなったら。	・それぞれの場面についてどんな行動をとればよいか話し合わせる。 ・情報の集め方について触れる。 ・あおりおもりのノートを参照し、確認する。	・あおりおもりのノート ・天気予報 ・ハザードマップ ・緊急避難情報
4 振り返る	・今日の学習で分かったことなどを振り返らせる。	

◆実践事例3 板書例



実践事例4 学習指導案

学 年	2年	
教科名	特別活動	
指導計画 (全2時間)	1	大雨・洪水・台風から身を守ろう
	2	避難所での過ごし方・感染症予防（本時）
本時の目標	感染予防に気を付けながら、避難所で過ごす方法を考える。	
防災の視点	(A) 感染症対策を踏まえた避難所での過ごし方	
あおもりおまもり ノートの活用	p20	
ICTの活用	・タブレット端末・プロジェクター	

本時の展開（2 / 2）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 ひなんじよですごすとき、どんなことに気をつけてすごせばよいか考えよう。		
2 見通す ○避難所の様子を知る。	・大雨、洪水、台風から身を守る方法として、避難所があることを知らせる。	・緊急避難情報 ・避難所の様子の写真
3 全体で話し合う ○健康でいるために。 ○暑さ・寒さをしのぐために。 ○感染症を予防するために。	・それぞれの場面についてどんな行動をとればよいか話し合わせる。 ・おまもりノートを参照し、確認する。	・あおもりおまもりノート
4 振り返る	・今日の学習で分かったことなどを振り返らせる。	

令和4年度 弘前市立石川小学校 3学年 防災教育年間指導計画

学年指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 地域の地形等に関心を持ち、災害時の避難場所や避難の仕方を知り、安全な行動ができる。 自然災害について知り、大人の指示を聞き、状況に応じて適切な行動をとることができる。 家族や友達、周囲の人と関わることから、有事の際には助け合うことができる。 						
		各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		連携	
学級活動	学校行事 児童会活動				学校種間連携	地域との連携 (保護・地域民・企業・NPO等)		
4月				わたしたちの 通学路	町会児童会①		地域住民との連携	
5月		目の見えない犬 生命の尊さ			避難訓練			
6月				ミニ避難訓練①	小中合同町会別 集団下校訓練		地域住民との連携 家庭との連携	
7月		ひきがえるとろば 生命の尊さ		ミニ避難訓練②	避難訓練			
					町会児童会②		地域住民との連携	
8月		見つからないリコーダー 節度、節制		洪水と避難			地域住民との連携	
9月					小中合同防災訓練 (引き渡し訓練)		家庭との連携 弘前市との連携	
10月		六さいのおよめさん 生命の尊さ	りんごの仕事 「台風からりんごを守る」	ミニ避難訓練③			地域住民との連携	
11月	社会(7) くらしを守る			ミニ避難訓練④				
12月		ハチドリ ひとしずく 自然愛護			町会児童会③		地域住民との連携	
1月				冬の安全な 登下校	避難訓練			
2月								
3月				ミニ避難訓練⑤				

実践事例 5・6

洪水と避難

教科別指導計画 3学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおりおもりノート	ICT活用
社会	2	くらしを守る	(A) 自分たちの安全なくらしを支えるしくみや人々の働きについて理解することができる。		
特別活動	2	大雨・洪水・台風から身を守ろう ※実践事例5	(A) 大雨・洪水・台風について学び、自分の身を守るための行動を考える。	p16～17	・タブレット端末 ・プロジェクター
		避難所での過ごし方や感染症予防 ※実践事例6	(A) 感染症対策を踏まえた避難所での過ごし方	p20	

実践事例5 学習指導案

学 年	3年	
教科名	特別活動	
指導計画 (全4時間)	1	大雨・洪水・台風から身を守ろう (1) (本時)
	2	大雨・洪水・台風から身を守ろう (2)
	3	避難所での過ごし方や感染症予防
	4	災害に備え準備しよう
本時の目標	大雨・洪水・台風などの災害が起きた時の身の守り方を考える。	
防災の視点	(A) 大雨・洪水・台風について学び、自分の身を守るための行動を考える。	
あおりおもりノートの活用	p16～17	
ICTの活用	・タブレット端末・プロジェクター	

本時の展開 (1 / 4)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 大雨・こう水・台風がおきた時、身をまもるために大切なことを考えよう。		
2 見通す ○台風が近づいて来るとわかったら ○雨や風が強くなってきたら (外で、家で)	・これまでの経験を元に考える。	
3 グループで話し合う	・それぞれの場面について話し合い、発表する。	
4 確かめる	・あおりおもりノートを参照し、確認する。	・あおりおもりノート
5 振り返る	・振り返りを書く。	

実践事例6 学習指導案

学 年	3年	
教科名	特別活動	
指導計画 (全4時間)	1	大雨・洪水・台風から身を守ろう(1)
	2	大雨・洪水・台風から身を守ろう(2)
	3	避難所での過ごし方や感染症予防(本時)
	4	災害に備え準備しよう
本時の目標	避難所での過ごし方や感染症予防について考える。	
防災の視点	(A) 感染症対策を踏まえた避難所での過ごし方	
あおりおまもり ノートの活用	p20	
ICTの活用	・タブレット端末・プロジェクター	

本時の展開(3/4)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 避難所での過ごし方や感染症予防について考えよう。		
2 見通す ○健康であるために ○暑さや寒さをしのぐために ○感染症を予防するために	・自分だったらどうするかという視点で考える。	
3 グループで話し合う	・それぞれの場面について話し合い、発表する。	
4 確かめる	・あおりおまもりノートを参照し、確認する。	・あおりおまもりノート
5 振り返る	・振り返りを書く。	

令和4年度 弘前市立石川小学校 4学年 防災教育年間指導計画

学年指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会に関心をもち、災害時の命を守る工夫について知り、安全な行動ができる。 ・自然災害について知り、大人の指示を確実に聞き、状況に応じて適切な行動をとることができる。 ・進んで、家族や友達、周囲の人と関わり合うことから、有事の際には協力して助け合うことができる。 						
		各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		連携	
					学級活動	学校行事 児童会活動	学校種間連携	地域との連携 保護者・地域民・企業・NPO等
4月					わたしたちの通学路	町会児童会①		地域住民との連携
5月						避難訓練		地域住民との連携
6月	社会(11) 「水はどこから」	おばちゃん、がんばれ 生命の尊さ			雨の日の行き帰り	ミニ避難訓練①	小中合同町会別 集団下校訓練	地域住民との連携 家庭との連携
7月			環境について調べよう		ミニ避難訓練②	避難訓練		地域住民との連携
8月			平川水生生物調査		出前トーク	町会児童会②		外部専門家との連携 地域住民との連携
9月	理科(5) 「雨水の流れ」	実践事例7・8			洪水と避難			地域住民との連携
10月	社会(10) 「地震からくらしを守る」	「石っこけんさん 宮沢賢治」 自然愛護			安全な集団行動	小中合同防災訓練 (引き渡し訓練)		家庭との連携 弘前市との連携 地域住民との連携
11月		わたしのいのち 生命の尊さ			ミニ避難訓練③			
12月		「神戸のふっこうはぼくらの手で」 勤労・公共の精神			ミニ避難訓練④			
1月		笑顔のクリクラウン 生命の尊さ				町会児童会③		地域住民との連携
2月		「ウミガメの命」 自然愛護			冬の安全な登下校	避難訓練		
3月					災害時の正しい行動の仕方			
					ミニ避難訓練⑤			

教科別指導計画 4 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおりおまもりノート	ICT 活用
社会	1	水はどこから	(A) 水源としての森林の役割と、ダムには洪水対策としての働きもあることを理解する。		
	2	地震からくらしを守る ※実践事例 7・8	(A) 県内の自然災害について関心を持ち、くらしを守るための関係機関や人々の働きについて考える。	p6	・実物投影機 ・タブレット端末 ・プロジェクター
理科	2	雨水の流れ	(A) 雨水は地面の高低差や土の様子によって、流れ方やしみこみ方が変わることを知る。		

実践事例 7 学習指導案

学 年	4 年	
教科名	社会「自然災害からくらしを守る」	
指導計画 (全 1 時間)	1	県内のさまざまな自然災害
本時の目標	青森県で起こった自然災害や災害時の対応について話し合うことで、地形と自然災害の関わりについて関心を持ち、単元学習の見通しをもつ。	
防災の視点	(A) 青森県や自分が住んでいる地域で想定される自然災害について学ぶ。	
あおりおまもり ノートの活用	p6	
ICTの活用	実物投影機、プロジェクター タブレット端末	

本時の展開 (1 / 1)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 見通す ○静岡県を例に、地形と自然災害や災害時の対応について話し合う。	・海に面していること、山間部がひろがっている地形が自然災害と関連していることを読み取らせる。	・教科書
2 学習課題 青森県では、どのような自然災害が起きてきたのだろうか。		
3 調べる ○青森県の地形と自然災害について調べる。 ○県内で起こりうる災害と対応について話し合う。	・静岡県と比較して、地形の共通点と過去の災害の関連に着目させる。 ・あおりおまもりノートを基に、災害時に取るべき行動について考える。	・わたしたちの弘前 ※弘前市教育委員会発行 3・4年社会科副読本 ・あおりおまもりノート
4 まとめる ○単元のめあてを確認し、次時からの学習の見通しをもつ。		
5 感想・振り返り		

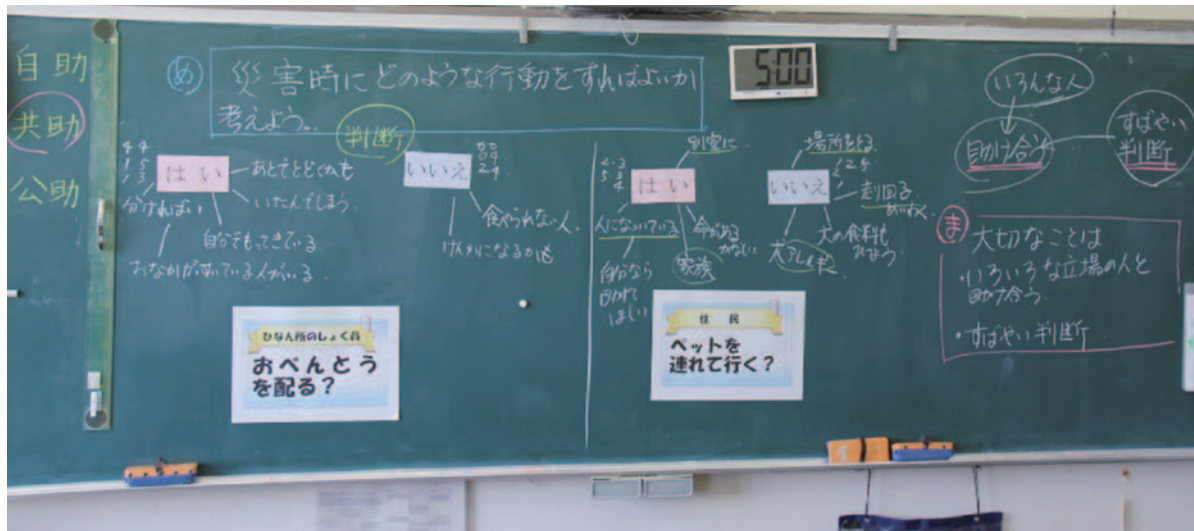
実践事例8 学習指導案

学 年	4 年
教科名	社会「地震からくらしを守る」
指導計画 (全9時間)	1 地震が起きたら
	2 地震とわたしたちのくらし
	3 家庭でそなえているもの
	4 学校や通学路でそなえているもの
	5 市の取り組み
	6 市と住民の強力
	7 住民どうしの協力
	8 地震からくらしを守る取り組みをまとめる
	9 避難所シミュレーション (本時)
本時の目標	避難所で起こりうる問題に対し、自分だったらどうするかを考えたり、友達の考えを聞いたりする活動を通して、いろいろな立場の人たちと協力していくことの大切さに気付く。
防災の視点	(A) 地震から災害から自分や仲間の命を守るため、自助・共助・公助の取組について学ぶ。
ICTの活用	実物投影機、プロジェクター、タブレット端末

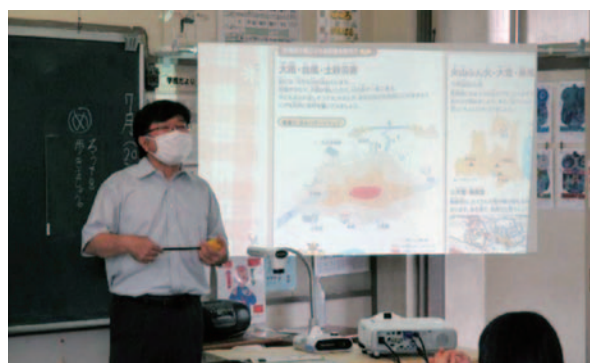
本時の展開 (9 / 9)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
<p>1 学習課題 災害時にどのような行動をすればよいか、シミュレーションゲームで考えよう。</p>		
<p>2 ゲームを行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【避難所職員の立場で】 避難所には、今300人いる。200人分の弁当が届いた。すぐに配るか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はい → 配る ・いいえ → 配らない </div> <p>(1) グループで取り組む。 (2) 話し合ったことを全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の判断について、理由を話し合う。 ・友達の意見は否定せずに聞くようにする。 ・一つの問題に対して、多様な考えがあることを理解する。 ・選択判断には理由や責任が伴うことを感じさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の映像 ・問題カード ・選択カード <p>※ 防災シミュレーションゲーム「クロスロード」参照</p>
<p>3 まとめる</p>		
<p>4 感想・振り返り</p>		

◆実践事例8 板書例



◆授業のようす



令和4年度 弘前市立石川小学校 5学年 防災教育年間指導計画

学年指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 地形や気象、自然環境について関心をもち、これらが災害と関連していることを知り、安全な行動の仕方を理解できる。 災害に関する情報から危険を予測し、適切な思考・判断のもと、身を守るための行動をとることができる。 家族や友達、地域の人たちと災害に関することで関わり合い、有事の際には周囲の人と助け合い、ボランティア活動にも参加できる。 					
	各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		連携	
				学級活動	学校行事 児童会活動	学校種間連携	地域との連携 保護者・地域民・企業・NPO等
4月		ぬぎすてられたくつ 節度、節制		登下校の安全	町会児童会①		地域住民との連携
5月	社会(5) 「低い土地の暮らし」	もったいない 自然愛護			避難訓練		
6月	社会(3) 「国土の気候の特色」	電池が切れるまで		雨の日の安全	ミニ避難訓練①	小中合同町会別 集団下校訓練	地域住民との連携 家庭との連携
7月	理科(10) 「雲と天気の変化」		郷土の歴史や文化	出前トーク	避難訓練		外部専門家との連携
8月				洪水と避難	町会児童会②		地域住民との連携
9月						防災に関する体験活動 (小5・6) 小中合同防災訓練 (引き渡し訓練)	家庭との連携 弘前市との連携
10月	理科(12) 「流れる水のはたらき」	母とながめた一番星 生命の尊重			ミニ避難訓練③		
11月	保健体育(2) けがの防止 手当				ミニ避難訓練④		
12月				外部講師講演			外部専門家との連携
1月			郷土の歴史や文化、伝統	冬の安全な登下校	町会児童会③		地域住民との連携
2月	社会(5) 「自然災害を防ぐ」			災害時の正しい行動の仕方			
3月					ミニ避難訓練⑤		

実践事例9

実践事例10

教科別指導計画 5 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおりおもりノート	ICT 活用
社会	1	低い土地の暮らし	(B) 低い土地の特徴やそれに伴う災害についての考えをもつようにする。		
	2	国土の気候の特色	(B) 我が国の国土の気候の特色を考え、自然災害の防止への工夫や努力を考える。		
理科	1	雲と天気の変化 ※実践事例 9	(A) 雲の量や動きは天気の変化と関係があることをとらえるようにする。	p16～17	・タブレット端末 (インターネット) ・プロジェクター
	2	流れる水のはたらき ※実践事例 10	(A) 大雨などで水の速さや量が増えると災害が起こることがあることをとらえるようにする。	p6	
保健体育	2	けがの防止手当	(A) 危険を予測して、身を守るための行動ができるようにする。		

実践事例 9 学習指導案

学 年	5 年	
教科名	理科 雲と天気の変化「台風の接近」	
指導計画 (全 3 時間)	1	台風について知っていることや知りたいことを話し合う
	2	台風の動き方と、天気の変化について
	3	台風による強風や大雨によって起こる災害について (本時)
本時の目標	過去に起きた台風による災害について調べて発表しよう	
防災の視点	(A) 台風の特徴や想定される被害について学び、適切に避難できる。	
あおりおもりノートの活用	p 16 ～ 17	
ICTの活用	・タブレット端末・インターネット・プロジェクター	

本時の展開 (3 / 3)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 自分の住む地域や他の地域で起きた過去の台風による災害について調べて発表しよう。	・前時の振り返り	
2 見通す ○台風が来ると雨が降るだけでなく生活にいろいろな影響が出てくる。		・教科書 ・インターネット ・台風の進路予想図と警報 ・地域の災害資料 ・ハザードマップ
3 話し合う ○大雨が降った際は、川のそばに近づかない。		・新聞の台風報道記事 ・テレビの台風報道の動画
4 確かめる	・あおりおもりノートを参照し、身の守り方を確認する。	・あおりおもりノート

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
5 まとめ	・自分の身の回りの災害について考える。	
6 感想・振り返り		

実践事例 10 学習指導案

学 年	5年	
教科名	理科 流れる水のはたらき「川と災害」	
指導計画 (全3時間)	1	川が増水した時、流れる水の働きによってどのような災害が起こるか話し合う。
	2	災害を防ぐために、川にはどのような工夫がされているか。
	3	水害に備える（本時）
本時の目標	災害時に自分たちの命を守るための行動を理解できる。	
防災の視点	(A) 河川洪水の特徴について学び、災害発生時の適切な避難行動を学ぶ。	
あおりおまもり ノートの活用	p6	
ICTの活用	・タブレット端末・インターネット・プロジェクター	

本時の展開（3／3）

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 自分の住む地域の川の水による災害について調べよう。	・前時の振り返り	
2 見通す		
3 調べる ○地域の防災の工夫を調べる。 ○洪水の避難場所として指定されている場所を調べる。		・水害対策の動画 ・地域のハザードマップ
4 話し合う	・危険な範囲にない場所であっても、油断しないよう助言する。	
5 まとめ ○命を守るための行動		・あおりおまもりノート
6 感想・振り返り		

令和4年度 弘前市立石川小学校 6学年 防災教育年間指導計画

学年指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 災害のメカニズムについて関心をもち、これについて調べ、理解し、安全な行動の仕方を理解できる。 災害に関する情報から危険を予測し、適切な思考・判断のもと周囲に気を配りながら身をまもるための主体的な行動をとることができる。 家族や友達、地域の人たちと災害に関することで関わり合い、有事の際には周囲の人と助け合い、ボランティア活動にも進んで参加できる。 						
	各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動		連携		
				学級活動	学校行事 児童会活動	学校種間連携	地域との連携 保護者・地域民・企業・NPO等	
4月				登下校の安全	町会児童会①		地域住民との連携	
5月	社会(7) 「震災復興の願いを実現する政治」		弘前市の暮らしや文化について調べよう		避難訓練		地域住民との連携	
6月	国語(10) 「地域の防災について話し合おう」	チョモランマ 清掃登山隊 自然愛護	大雨・洪水・台風から身を守ろう。	雨の日の安全	ミニ避難訓練①	小中合同町会別 集団下校訓練	地域住民との連携 家庭との連携	
7月		折り鶴にこめられた願い 生命の尊重		出前トーク	避難訓練		外部専門家との連携 地域住民との連携	
8月			地球温暖化に伴う災害の変化				地域住民との連携	
9月			両館と弘前を比べてみよう	洪水と避難		防災に関する体験活動 (小5・6) 小中合同防災訓練 (引き渡し訓練)	家庭との連携 弘前市との連携	
10月	理科(12) 「大地のつくりと変化」	食べ残されたえびになみだ 節度、節制			ミニ避難訓練③		地域住民との連携	
11月		命を見つめて 生命の尊重			ミニ避難訓練④			
12月	保健体育(2) けがの防止 危険回避			外部講師講演			外部専門家との連携	
1月		その思いを受けついで 生命の尊重		冬の安全な登下校	避難訓練			
2月	理科(8) 「人と環境」			災害時の正しい行動の仕方				
3月					ミニ避難訓練⑤			

教科別指導計画 6 学年

教科	学期	単元名	防災の視点 (A) 防災教育の目標に準ずるもの (B) 防災に関する取組や題材を取り上げるもの (C) 防災に関連する活動を行うもの	あおりおもりのノート	ICT 活用
社会	1	震災復興の願いを実現する政治 ※実践事例 11	(B) 復興に向けて市や市民、国はどのような取組みをしているか理解する。	p26～27 p28～31	・実物投影機 ・タブレット端末 ・プロジェクター
国語	1	地域の防災について話し合おう	(A) 異なる立場からの意見を聞いたり、質問し、答えたりすることによって、災害について自分の考えを深めることができる。		
理科	2	大地のつくりと変化	(B) 土地は、火山の噴火や地震によって変化することを理解する。		
	3	人と環境	(A) 人と環境について学んだことを学習や生活に生かすことができる。		
保健体育	2	けがの防止危険回避	(A) 自然災害による怪我の防止方法を知り、日頃の備えなどが必要なことを理解できる。		
総合的な学習の時間	1	大雨・洪水・台風から身を守ろう。 ※実践事例 12	(A) 災害の発生への備えについて理解する。	p16～19 p20～21	・実物投影機 ・タブレット端末 ・プロジェクター

実践事例 11 学習指導案

学 年	6 年	
教科名	社会科「震災復興の願いを実現する政治」	
指導計画 (全7時間)	1・2	(つかむ) 震災の発生と町の人たちの願いについて話し合う。
	3・4	(調べる) 復興に向けた行政や市民の取組みについて調べる。(本時)
	5・6	(まとめる) 調べたことについて自分の考えをまとめる。
	7	(いかす) 多様な意見をまとめるために大切なことを考える。
本時の目標	復興に向けた市や市民の取組みについて理解する。	
防災の視点	(B) 公助の視点から防災について理解を深める。	
あおりおもりのノートの活用	避難所での過ごし方&感染症予防 p26～27 実例などから学ぼう p28～31	
ICTの活用	実物投影機、プロジェクター タブレット端末	

本時の展開 (4 / 7)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 復興に向けて市や市民の取組みについて調べよう。		
2 見通す ○復興に向けて、国はどのような取組みを行ったか話し合う。	・法律、予算面について調べさせる。	

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
3 調べる ○気仙沼市の復興の計画や様子について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 震災直後や数年後の様子について調べさせる。 気仙沼漁港の取り組みについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 震災直後と現在の気仙沼市の様子 あおりおまもりノート p26～31
4 交流する ○市や市民の取り組みについて調べたことを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 市は復興計画を作成し、計画に基づいて、復興に向けた取り組みを行っていることやその内容について交流し合う。 	
5 まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返りまとめる。 	

実践事例 12 学習指導案

学 年	6年	
教科名	総合的な学習の時間	
指導計画 (全2時間)	1	大雨・洪水・台風から身を守ろう (本時)
	2	地球温暖化にともなう災害の変化
本時の目標	大雨等の災害時に自分や仲間の命を守るための行動を理解できる。	
防災の視点	(A) 災害の発生への備えについて学ぶ。	
あおりおまもり ノートの活用	大雨・洪水・台風から身を守ろう p16～19 地球温暖化にともなう災害の変化 p20～21	
ICTの活用	実物投影機、プロジェクター タブレット端末	

本時の展開 (1 / 2)

学習内容・活動	指導上の留意点	教材・資料
1 学習課題 大雨・洪水・台風から、身を守るために大切なことを考えよう。		
2 見通す ○通学路や家の周り	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や経験を想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> あおりおまもりノート 災害の映像
3 交流する ○とるべき行動とその理由	<ul style="list-style-type: none"> おまもりノートを参照し確認する。 避難の仕方、連絡の取り方、準備しておくべき物等について考える。 	
4 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から家族と話し合っておく大切さを確認する。 	

外部専門家の活用について

出前トーク（石川地区の川の氾濫、洪水、防災等に関する講演）

日 時 令和4年6月13日（月）

13：20～14：05

講 師 青森県県土整備部河川砂防課
企画・防災グループ 須藤 直也 氏

対 象 4～6年生、地域の自主防災組織

内 容 (1) 洪水被害を防止するための県による
ハード面の対策
(2) 平川の浸水想定
(弘前市ハザードマップ)
(3) 洪水から身を守るために



防災体験学習

日 時 令和4年12月6日（火）10：00～11：30

講 師 日本赤十字社青森県支部 職員3名
青森県防災士会 防災士1名

対 象 5・6年生

内 容 ①三角巾を使用した応急手当



② AEDトレーナーによる心肺蘇生法実習



③ けが人の搬送法



外部講師による講演

- 日時 令和4年12月6日(火) 13:20～14:05
講師 弘前大学教育学部 教授 小岩 直人 氏
対象 5・6年生
内容 石川地区の地形・地質の特徴を知り、自然災害に備える
地域を嫌いにならない防災教育を－恩恵と災害－



地域と連携した防災訓練について

※訓練当日の台風接近の予報に伴い、事前に防災訓練を中止としたことから、以下に、防災訓練計画を掲載する。(実際には、当日小学校のみ引き渡しでの下校を行った。)

小中合同防災訓練【引き渡し訓練】

1 想定

朝からの大雨により平川が増水、午後には警戒レベル4発令の可能性がある。児童生徒だけでの帰宅が困難になることが予想されるため、小中合同で避難し、保護者へ引き渡す。

2 ねらい

- (1) 全員が安全に避難できるようにする。
- (2) 小中連携して児童生徒を保護者へ安全に引き渡す。

3 日時

令和4年9月20日(火) 14:00

4 内容

11:45	4校時終了
11:45～12:30	給食
12:30～13:00	昼休み 臨時職員会議(引き渡しについての確認)
13:00～13:15	通常清掃
13:15～14:04	5校時(含帰りの会) ※5校時中に外ブツクの準備
14:04	校内放送 チャイム音で児童生徒の活動を停止させ、放送の指示に従う。 【教頭】

① 〈4音チャイム〉

② 「訓練。訓練。」

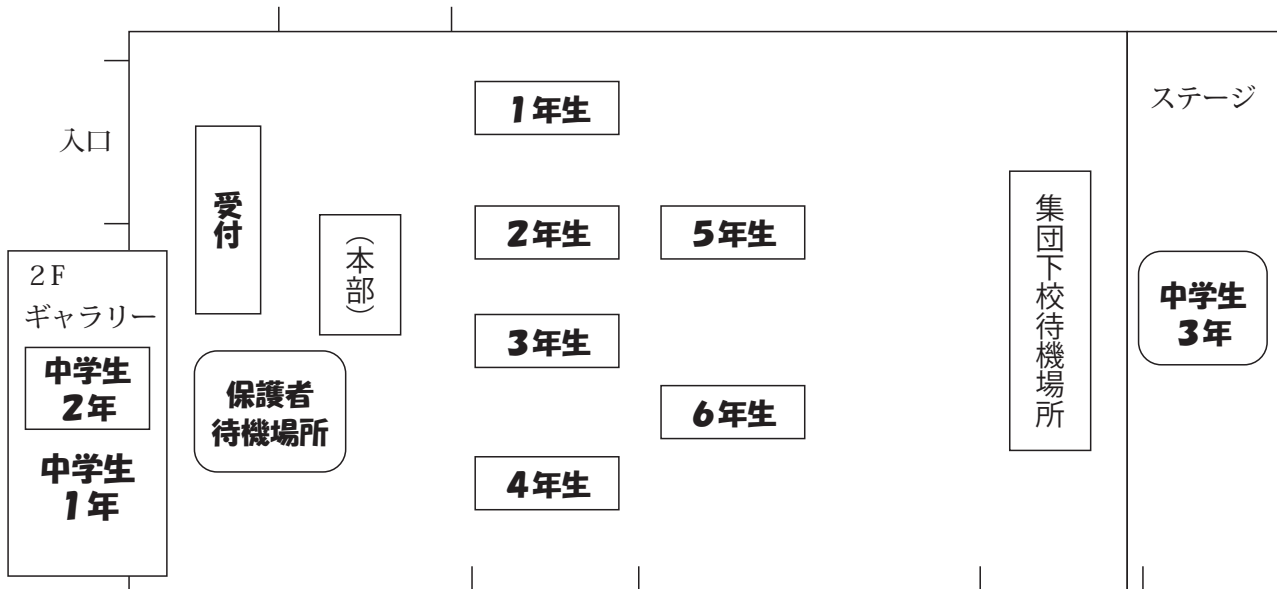
「今朝からの大雨で、平川が増水し、浸水被害が起こる危険があります。」

「安全なうちに下校しますので、体育館に速やかに移動してください。」

③ 〈4音チャイム〉

14:05	移動開始
14:14	体育館移動完了(学年ごとに整列、点呼→本部に報告)
14:15	諸連絡 ※電車を利用する児童生徒を帰宅させる。 (14:40の電車)
14:20頃	引き渡しスタート
14:30	保護者が迎えに来ない児童・生徒を町会ごとに集合させる。 集団下校開始(町会ごとに順次) 指示:中学校担当
14:50	引き渡し訓練終了

5 集合隊形図（小学校体育館）



地域と連携した防災訓練の実施に向けた取組（検討協議会）

協議会出席者

所 属	役 職	備 考
石川小学校	校長、教頭、生徒指導主任	研究指定校
石川中学校	校長、教頭、生徒指導主事	研究指定校の周辺校
弘前市教育委員会学務健康課	指導主事	所管の教育委員会
弘前市防災課	課長補佐、総括主査	所管の防災担当部局
地域の自主防災会 (石川、大沢、乳井、小金崎、薬師堂)	会長	地域の関係者
弘前大学教育学部	教授	学識経験者
日本赤十字社青森県支部	事業推進課長、事業係長	外部専門家
青森県防災士会	青森支部長	外部専門家
中南教育事務所	指導主事	事務局
青森県教育庁スポーツ健康課	指導主事	事務局

第1回検討協議会

日 時：令和4年6月13日（月）14：30～16：00

場 所：弘前市立石川小学校 体育館

内 容：(1) 今年度の防災教育計画
(2) 9月20日予定
地域と連携した防災訓練の概要



第2回検討協議会

日 時：令和4年8月22日（月）14：30～16：00

場 所：弘前市立石川小学校 音楽室

内 容：9月20日予定 地域と連携した防災訓練
(1) 午前の部 体験学習
(2) 午後の部 引渡し訓練

第3回検討協議会

日 時：令和4年11月14日（月）14：30～16：00

場 所：弘前市立石川小学校 会議室

内 容：(1) 令和4年度の防災教育の取組について
【石川小学校】

○引渡し訓練について

第1回検討協議会において、「実際の引渡しの場面になれば自主防災組織も町会内の対応が必要であり、学校の対応にまで手が回らないだろう。」との意見もあったことから、今年度は自主防災組織の方々に引渡し訓練を見学していただき、学校での対応や必要な手立てなどを確認する機会として設定した。地域の方の意見を聴く機会としたかったが中止となり、残念であった。



○「あおりおまもりノート」の活用

低学年では特別活動の時間に活用。災害の種類や災害からの身の守り方などを学習した。4年生は社会科の「自然災害から人々を守る」、5年生は理科の「気象について（台風）」、6年生は社会科「震災復興の願いと政治」のそれぞれの単元でノートを活用した。

○防災教育のテーマについて

令和4年度までは県の指定を受け、河川洪水をテーマとして取り組んだところだが、他の自然災害についても扱うことが必要であると考え、来年度は例えば地震をテーマにするなどして、石川小学校の取組として年毎にテーマを設定し、取り組んでいくことを考えている。

○防災教育年間指導計画について

本校で防災教育年間指導計画を作成して系統的に取り組んでみたが、各教科で防災に関係する内容が組み込まれていることから、内容を整理することができたので、とても良かったと思っている。弘前市の校長会でも本校の取組を広めているところである。

○救急処置体験について

12月に日本赤十字社・県防災士会の方を講師に実施予定。日赤からの助言で昨年度と同様の内容を実施することとした。繰り返し行うことでスキルが定着すること、前回の経験をもとにした新たな気付きにつながることを期待している。

○学校防災体制の強化について

学校運営協議会でも防災教育について情報提供する等、既存の組織においても防災教育に係る連携を図ることができた。

【自主防災会】

8月に大雨警報も出たので、地域でも防災への意識は高まったように思う。今年も地域と連携した防災訓練が実施できなかったが、来年以降協力していきたい。

自主防災組織には様々な班があるが、今回の協議会に参加してみて、小中学校の対応を支援する班を組織したいと考えるがどうか。

→ 実際に子どもを引き渡す際には、確実に保護者に引き渡すことが求められる。また、引き渡しに来ることができない保護者がいる場合には学校に留め置くほかないと考える。地域の方の学校に協力したいという気持ちには感謝する一方、引き渡し時に地域の方に子どもを引き渡すことはその時の対応が煩雑になるため難しいと思う（石川小学校）。

→ 小学校と同様、子どもの引き渡しは保護者への引き渡し原則であるため、地域の方に引き渡すことは事前の準備をしたとしても当日その方が来られるとは限らないため現実的ではないと思う（石川中学校）。

【日本赤十字社青森県支部】

災害を自分事として考えることが防災教育の前提にある。地域の災害リスクを理解することが大事。この地区は河川洪水浸水区域となっている。ダム建設により河川の氾濫はだいぶ予防されているが、ダムの決壊や緊急放流なども想定しておく必要があるだろう。大雨が予想される場合には危機感を持たなければならない。

学校防災を考えたときに、いつも思うことの1つに「必ず校庭（屋外）に避難しなければならないのか」疑問に思っている。大規模地震発生時も、校舎外へ避難する際にケガを負うリスクや余震に遭うリスクもあるため、必ずしも屋外避難が安全であるかというところとは限らない。引き渡しについても同様で

ある。引き渡しにもリスクがあるため、引き渡しを行う判断についてはそうしたリスクを考えた上で行うべきだろう。引き渡しありきではない防災訓練の在り方も検討してほしい。

【青森県防災士】

町民会館での避難所運営に当たっては、避難所生活に必要な物資をそろえておく必要がある。その一方で、町民会館に物資を準備しておくことができないのであれば、町民会館には物資は無い旨を地域住民に周知すること、そして、避難する際には必要な物資は自分で持参することを周知する必要がある。

学校もそうだが、洪水浸水が想定される場所では、避難所生活に必要な物資はあらかじめ2階以上に上げておいた方がよい。大雨が降ってから運ぶのも想定されるが間に合わないことも考えられる。

(2) 令和5年度に向けて

○成果と課題について

(成果)

- ① 防災教育年間指導計画等の作成により、指導内容の整理や教科等横断的な取組を進めることができた。
- ② 「あおりおまもりノート」の活用を通じて、低学年と高学年の防災教育の内容を系統的に行う見通しを持つことができた。
- ③ 外部専門家から専門的な知識を学ぶ機会となったとともに、外部とのつながりを持つことができた。
- ④ 防災について既存の組織に加え、市防災課や町会の自主防災組織と連携する機会となった。

(課題)

- ① 地域の現状から、児童は自然災害を自分事として捉えにくい状況であることから、防災を日常的なものとして捉えるためにも必要感を重視して取り組む必要がある。
- ② 防災教育については、組織的かつ継続的に取り組む必要があることから、校内外の組織の整備を行う必要がある。

校内での防災教育とともに、他の人や地域の安全に役立てようとする（共助）態度を養うためにも、地域と連携した継続的な取組の必要性を確認できた。今後、学校と地域の橋渡しとしてのPTA活動を模索しながら、この石川地区の防災教育を進めたい。

